

コンタクトレンズ
学校でのカラーCLの対応



神奈川県医師会

カラーSCLを含めCLは医師の処方せんなしで雑貨店やインターネット・通信販売で購入できるために、医師の診察、正しい取扱い、レンズケアの指導を受けずに、不適切に使用している人が増加しています

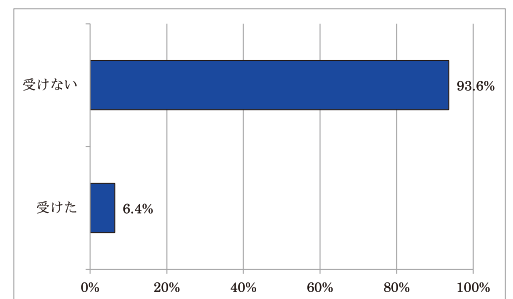


図11 平成22年日本CL協会のネットを利用したCL使用者調査 29,194名の内、度なしカラーSCL使用者の定期検査の状況

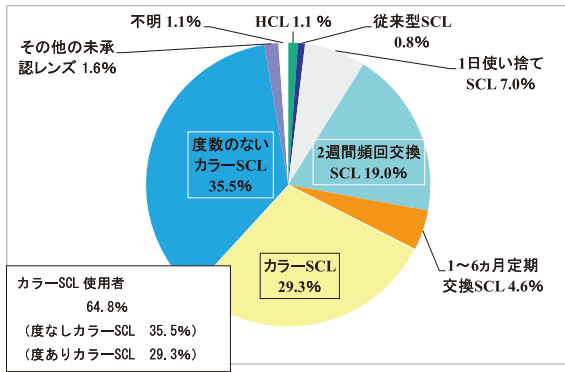


図12 平成23年度日本眼科医会CL眼障害調査報告
通信販売・インターネット販売に限定
(公益社団法人日本眼科医会)

ました6)。CL販売では、CLを購入する者に、医療機関の受診状況を確認し、それを記載、保存し、医療機関を受診していない場合は、CLの健康被害等の情報提供を行い、医療機関を受診するよう勧奨しました。さらに、日本CL協会が制定した「CLの販売自主基準」を徹底するように通達を出しました。その基準にはCL販売店は、CLの販売には、眼科医療機関のCL指示書に基づいて販売するよう努めること。CL使用者には、眼科医の指示を受け、それを守ることが記載されています。さらに9月に同省は医薬品・医療機器等安全性情報に「CLの適正使用と眼障害防止について」を発表し、カラーSCLによるトラブルの多発を報告しています7)。

4 大人の方の適切なカラーコンタクトレンズ使用方法

大人の方でどうしてもカラーSCLを使用する場合には、通常は透明なCLを使用し、必要な場合に酸素透過性の高い、1日使い捨てのカラーSCLの短時間使用をすすめます。カラーSCLを希望される方は必ず眼科医師の処方を受けて、正しい使用方法・レンズケアを守り定期検査を受け、添付文書をしっかりと読んでください。痛みや症状などトラブルがある場合はすぐに外して、眼科医を受診してください表2。

<表2> カラーSCLの適切な使用方法

- コンプライアンスが低い方は使用しない
- 通常は透明なCLを使用し、どうしても使用するならば、**酸素透過性の高い素材の毎日使い捨てSCLの短時間装用をすすめる**
- カラーSCL希望者は必ず眼科医師の処方を受けて、正しい使用方法・レンズケアを守り、添付文書をしっかりと読む
- カラーSCLは美容目的であり、学校現場には美容は不要です。子どもたちへの使用はすすめない

5 学校現場でのカラーコンタクトレンズ使用は不必要

大人でもカラーSCLによる眼障害者が増加しているのに、自己責任のとれない子どもたちにカラーSCLはすすめられません。カラーSCLの使用目的は美容であり、学校現場では美容は不要です。さらに風紀上の問題もあります。学校現場では、眼科学校医、学校関係者によるカラーSCLの健康教育、啓発活動を積極的に実施していただきたい。

<文 献>

- 1) 宇津見義一:平成24年度学校現場でのコンタクトレンズ使用状況調査、日本の眼科,85,346-366,2014.
- 2) 日本コンタクトレンズ学会:カラーコンタクトレンズが抱える諸問題、日本コンタクトレンズ学会緊急レクチャー、平成25年3月7日、東京.
- 3) 植田喜一、上川真己、田倉智之、宇津見義一、金井淳:インターネットを利用したコンタクトレンズ装用者のコンプライアンスに関するアンケート調査. 日本の眼科,81:394-407,2010.
- 4) 高橋和博、宇津見義一、藤堂勝巳、魚谷純、福下公子、高野繁:コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告(平成23年度)、日本の眼科、83、513-520、2012.
- 5) コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告(平成24年度):高橋和博、魚谷純、山下秀明、福下公子、高野繁:コンタクトレンズによる眼障害アンケート調査の集計結果報告(平成24年度)、日本の眼科、94、801-810、2013.
- 6) 厚生労働省医薬食品局:コンタクトレンズの販売時における取り扱いについて、厚生労働省医薬食品局通知、薬食発0718第16号、平成24年7月18日.
- 7) 厚生労働省医薬食品局:コンタクトレンズの適正使用と眼障害防止について、厚生労働省医薬品・医療機器等安全性情報、3-7、2012(平成24年9月).

学校でのカラーC Lの対応

(平成26年3月 発行)

神奈川県医師会
横浜市中区富士見町3-1
電話 045-241-7000
FAX 045-241-1464

神奈川県医師会学会医部会 学校保健調査研究委員会名簿

| | | | |
|---------------------|---------------------|------|-------------------|
| 部会長 | 大久保 吉 修 | 委員長 | 川 辺 幹 男 (眼科・横須賀市) |
| 副部会長 | 近 藤 正 樹 澤 井 博 司 | 副委員長 | 北 田 守 (内科・横浜市) |
| | 菊 岡 正 和 角 野 禎 子 | 副委員長 | 梅 沢 幸 子 (小児科・平塚市) |
| 下 山 丈 紀 (小児科・川崎市) | 加 藤 葉 子 (小児科・藤沢市) | | |
| 三 宅 正 敬 (眼科・厚木) | 大 山 宜 秀 (小児科・相模原市) | | |
| 増 田 惠 一 (産婦人科・海老名市) | 宇津見 義 一 (眼科・横浜市) | | |
| 新 谷 敏 晴 (耳鼻科・川崎市) | 内 山 勝 文 (整形外科・相模原市) | | |
| 小 幡 秀 一 (皮膚科・厚木) | 金 成 正 浩 (内科・横須賀市) | | |
| 竹 山 孝 二 (精神科・横浜市) | | | |

執筆者・写真提供者：

神奈川県医師会学校医部会 学校保健調査研究委員
神奈川県眼科医会理事、日本コンタクトレンズ学会理事、
日本学校保健会評議員

宇津見 義一